

一般社団法人北海道高齢者向け住宅事業者協会

2022年度（令和4年度） 第8回定例年次総会 議事録

日 時：2022年（令和4年）6月30日（木）

18:00～18:55

会 場：各会員事業所等（「Zoom」を使ったテレビ会議方式）

出席状況：有効総正会員数 74個（6月30日現在）

出席正会員数（理事を含む） 12個

委任状数 51個（議長委任49個＋奥田会長委任2個）

計 63個（85.13%）

参考：出席賛助会員数（議決権なし） 2個

出席監事 杉岡監事

18時00分定刻となり、司会者（事務局）により、総会開会の宣言がなされた。

奥田会長より以下の開会挨拶がなされた。

『本会も発足後10年を経過し、本会は当初、未届有料老人ホームを含む高齢者向け住まいの横断的な団体として発足したが、以後10年を経過し、①全国的なサ高住の事業者団体の組織化が進んだ、②全国有料老人ホーム協会も会員数の減少からか入会金の廃止などの動きもある。そこで、本会としても本年度は初心に戻り、「本会の存在意義」について再検討する年にしたいと考えている。

また、後ほど本年度の事業計画において説明する「北海道における高齢者向け住宅の現状と課題」について2つのテーマでの調査を目玉事業として行いたい。』

その後、議長には司会者一任により、高齢者住宅 すずらん（医療法人 道東金両者医療協会）管理者の伊東義光氏が指名された。

議長より議事録署名人として「SOMPO ケア株式会社」の田村理事と「株式会社えみな」の糸田氏が指名された。その後、議長から事務局に資格審査報告の指示があり、事務局から出席正会員数12個（うち理事8名）、委任状数51個の合計63個と報告され、定款第17条の規定より、出席正会員ならびに委任状提出数合計が正会員の過半数を超えることから、本総会が有効に成立することが報告された。

その後、早速各議案の審議に移った。

議 事

第1号議案 2021年度（令和3年度）事業報告について

第2号議案 2021年度（令和3年度）決算報告について

第3号議案 2021年度（令和3年度）監査報告について

議長より第1号議案から第3号議案までを一括審議とし、質疑も3つ全ての議案の説明後とする旨、提案があった。まず、議長指名により、石田副会長より事前配布済み議案書を画面共有しつつ、第1号議案について、引き続き第2号議案について説明、報告がなされた。

第3号議案については杉岡監事より、事前配布の監査報告書の読み上げがなされ、事務局より監事に当該年度の事業実施状況ならびに会計処理を適正と認め、押印を受領済みである旨（監事の押印済み監査報告書原本を画面に掲示）、報告がなされた。

3つの議案報告後、議長より出席者に質疑を求めたが特段の発言がなかったため、承認を諮ったところ挙手多数をもって原案どおりで承認された。

第4号議案 2022年度（令和4年度）事業計画（案）について

第5号議案 2022年度（令和4年度）予算（案）について

議長より第4号議案と第5号議案についても一括審議とし、質疑も2つの議案の説明後とする旨、提案がなされた。その後、議長指名により奥田会長より事前配布済み議案書を画面共有し、第4号議案、第5号議案の説明がなされた。

2つの議案報告後、議長より出席者に質疑を求めたが特段の発言がなかったため、承認を諮ったところ挙手多数をもって原案どおりで承認された。

18時30分過ぎ、あらかじめ提出済みの議案すべての審議を終了し、議長より事務局に司会が戻された。

司会者（事務局）より議長への謝辞の後、予定より早く総会が終了したため以後、理事以外の参加会員を順次指名し、自由な発言を求めた。

白鳥氏（株iQ、賛助会員）：我が社はこの4月に発足し、高齢者施設・住宅に伺い介護予防体操、健康体操を提供しております。高齢者施設さんのご紹介で高住協に入会した次第です。私自身はこれまで新冠で活動しており、札幌の高齢者施設の現状についてあまり知らないことが多いのでこの会を通していろいろ勉強したいと考えおり、よろしくお願ひしたい。

福原氏（(社福) 標津福祉会、正会員）：本年度の事業計画（案）で会長より説明があったが、郡部と都市部のニーズにやはり違いがあると感じている。人口が減りつつ、高齢者の割合が増える中、外国人も含めた雇用体制も含め、ニーズに関する調査が会員にとってのいい情報になることを期待している。当方としても調査には、ぜひ協力させていただきたい。

奥田会長：高住協は、10年前当時札幌に大変多かった未届有料老人ホームの調査事業をきっかけとし、未届有料老人ホームの「質の向上」を目指して発足した。しかし、冒頭の挨拶で述べたようにサ高住の全国団体の組織化が進んでいます。また北海道、特に札幌における未届有料老人ホームも厚労省、札幌市の指導強化があり、届け出が進み、未届は大幅に減っています。そのような状況の変化の中で、本会の存在意義をこの1年、考えたいと思います。そのためにも調査研究事業を通して現在の高齢者の住まいに求められているニーズをとらえたい。福原さんにも調査研修事業にはぜひご協力をお願いしたい。

糸田氏（株えみな、正会員）：私どもは、千歳市内でサ高住、小規模多機能ホームを複数運営しているが最近、男性入居者の割合の増加、道外も含め地方からの呼び寄せ入居が増えていると感じている。また、コロナ禍において、特に自立している方々に外出できないことに関する不満が大きかった。共用部を通らないで外に出られるような建物の形態の検討もありうるのではないかと感じている。以上、状況報告ですが・・・。

伊東氏（医療法人 道東勤労者医療協会、正会員）：私は、釧路の介護福祉会において研修の企画等をやっているが、道のキャリアパス支援事業の補助金を利用して、研修の無料化を行っている。高住協でも利用を検討してみてもどうか。

奥田会長：ご指摘の補助金は同の福祉関連なので、住宅が利用するには理由付けが必要かもしれません。いずれにせよ利用を検討してみたい。

以上で理事以外の参加者発言が終了し、閉会予定時刻も近づき、18時55分頃、弊会を宣言した。

以上の内容に相違ないことを確認の上、署名・捺印する。


2022年（令和4年）6月30日（木）開催分

（一社）北海道高齢者向け住宅事業者協会 第8回定例年次総会議事録署名欄

議長 会員番号121：医療法人 道東勤労者医療協会
高齢者住宅 すずらん 管理者

伊東 義光 

議事録署名人 会員番号028：SOMPO ケア株式会社
東日本事業部(理事)

田村 友明 

議事録署名人 会員番号082：株式会社えみな
代表取締役

糸田 純子 

議事録作成 事務局 立花
以上